○陸上競技トラック改修すべき
○鳥見山公園周辺の交通安全対策を
○米づくり農家の展望はあるか

古川文雄議員

質問　鳥見山公園の施設には多くの利用者が集まる。特に陸上競技場は陸上とサッカーの大きな大会も開かれているが、施設の傷みが目立っている。トラックもかなり摩耗しているようだ。今後の施設改修について、どのような計画があるのか。

町長　鳥見山陸上競技場トラックは平成15年に改修しているが、すでに12年経過している。改修の必要性については、十分認識している。具体的なめどは立っていないが、補助金の調査と基金の積立を行いたい。

質問　二池から鳥見山公園までの町道は幅員が狭く、歩道もないため、歩行者がいる状態での車の交差は危険である。道路改良等の安全対策は考えられないか。

町長　この町道については、中学生部活の通路及び鏡石消防署からの緊急輸送路であり、利用頻度も高い路線である。町の通学路交通安全プログラムに位置づけ、歩行者と自動車の分離を行う歩道整備計画を進めたい。

質問　鳥見山公園北西部のグリーンロードとの接続部については、勾配がきつく見通しが悪い。道路横断者も危険にさらされており、安全確保を図るべきでないか。

都市建設課長　この接続部の道路については、見通しが悪いことは認識しており、大規模な視距改良工事は計画してないが、注意喚起の区画線とセーフティコーン等で通行の安全対策を図りたい。

質問　町長は降りてみたい、歩いてみたい、という言葉をよく使うが、駅から降りて鳥見山公園へ歩く散策ルートは、このグリーンロードである。必要なのは注意喚起ではなく、道路改良での安全確保ではないのか。

町長　実際に車で通ってみて、危険個所であることは認識している。交通安全対策は優先して検討する。

質問　交通安全対策は道路の構造的な問題ばかりでなく、マナーも重要だ。鳥見山公園周辺で特に目につくのが、中学生の交通マナーの悪さである。どのような対応を考えているのか。

教育長　安心安全が教育の基本である。あらゆる安心安全について、学校では指導することとしている。教育委員会もそれを支援する。

質問　米価下落のため、小作契約解消という話をよく耳にする。町としては、米づくり農家の戸数や規模についてどのように考えているのか。

産業課長　今後は担い手や集落営農への集積による大規模化が進むと考えている。町では、農地中間管理機構等による集積が推進されるよう、情報の提供に努めたい。

質問　中間管理機構の資料には、借り手がつかないような農地は借りないといった内容の記載がある。このような農地が増えると、稲作が衰退してしまうのではないか。

産業課長　借り手の情報は少ないが、米づくり経営体の育成が今後の課題である。多面的機能交付金の活用で、地域での活動が進んでいるので、町も一緒になって農地を守る方策を検討したい。

鏡石の米づくりはどうするか

○消防支援隊はどう位置付けするのか
○消防協力店の優遇策はあるのか
○駅東開発の約束事はどうするのか
○米価下落の独自助成を行うべき

大河原正雄議員

質問　消防団をサポートする支援隊は今後、町の防災策として、どのような位置付けを考えているのか。

町長　消防活動支援隊は8小分団で組織されており、消防団の後方支援が主な目的である。位置づけとしては、消防団活動の最大のボランティア組織となる。

質問　支援隊出動時の事故対策及び保険加入については、どうなっているか。

総務課長　後方支援といっても、火災では事故も考えられる。支援隊の皆さんには、町で保険加入した。

質問　消防団員を支援する、町内の協力店や企業に対する優遇策は考えられないか。

総務課長　5月から頑張れ消防団応援事業がスタートし、町内の27事業所が協賛している。こうした事業所をパンフレット等で紹介PRしている。

質問　駅東開発について、当初の計画説明会において排水路の整備をお願いし、町では了承していたが、未だに実行されていない。こうした約束事をどのように考えているのか。

都市建設課長　当初の説明会の記録には残っていないが、排水路の流れが悪いところは直営作業で対応する。

質問　工事内容としてはU字溝を設置して、管理できるものを望みたいがどうか。

都市建設課長　工事については、区域内の要望箇所の優先順位を検討して進めたい。

質問　宅地造成は今後、何年で完了するのか。当時、町で買収したときは10a当たり650万円だったが、水田の固定資産税はどうなっているのか。

工事が進む駅東地区画整理

町長　この先何年かかるのかですが、前に進むのか、後戻りするのか、早急に検討したい。

税務町民課長　市街化区域の農地については、宅地に転用できる農地として評価している。駅東は区画整理事業の進捗状況から所要の補正を行い、平成27年度では平米2千200円で評価している。但し、課税標準については、直接固定資産税に反映されるため小幅に上昇させている。

質問　米価の下落によって農家経営は苦しくなっている。水田や道路の管理は環境保全でもあることから、町として独自の助成を実施してはどうか。

産業課長　米価下落により生産意欲の減退や耕作放棄地の拡大等が懸念されている。国県でも各種支援策が講じられ、町でも種子購入費の助成等の実施に向け準備している。

質問　町ではブランド米として牧場の雫を推奨しているが、拡大する傾向がみられない。栽培基準や販売方法を見直し、多くの農家が取り組めるように改善すべきでないか。

町長　ブランド米については生産量が少ないため、牧場の雫ではなく福島県特別栽培米として市場に流通している。今後、関係者と協議し、販路の開拓、栽培基準、さらに生産量の見直しについて協議したい。